




令和5年度始良市立建昌幼稚園研修計画

令和5年4月24日 始良市立建昌幼稚園

	年少 りす組	年中 こあら組	年長 きりん組
研究主題	3年間(年少から年長)をつなぐ、幼児の主体的な活動に取り組むための援助の在り方		
サブテーマ	3歳児に気付きや試行錯誤を促し、活動の幅を広げるための教師間の連携について	遊びを深め気づき、試行錯誤することで自己発揮を促す環境構成の工夫を通して	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とのつながりに着目して
主題設定理由	<p>幼稚園教育要領解説の中で「幼児の行う活動は、個人、グループ、学級全体などで多様に展開されるものであることを踏まえ、幼稚園全体の教師による協力体制を作りながら、一人一人の幼児が興味や欲求を十分に満足させるよう適切な援助を行うようにすること」と示されている。</p> <p>特に3歳児にとって教師は指導者であり、時には母親の役割を担うこともある。基本的な生活習慣の自立と共に集団生活の基礎を個々に応じて、丁寧に指導をする必要がある。しかし、年々、家庭での指導力の低下が感じられたり、令和生まれのコロナ禍でマスク生活を送ってきたためか、相手の表情を感じ取ることができない幼児の姿が見られたりする。そのため、教師一人では指導が不十分になり、ティーム保育による指導が必要である。</p> <p>本研究において、幼稚園生活の始まりである3歳児に気付きや試行錯誤を促し、活動の幅を広げるための声掛けや援助の在り方、ティーム保育の工夫の在り方についての研究を深めるため本主題を設定した。</p>	<p>幼稚園要領「環境」の領域では、「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関り、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と示されている。</p> <p>幼児の「やってみたい」「こうしよう」「できた」の気持ちは幼児を取りまく様々な「環境」から生み出され発展し、また新たな「環境」が生まれていくと考えられる。</p> <p>しかし、これまでの保育を振り返ると、幼児の興味関心のある活動の中で盛り上がりは見せるものの、連続性や発展性に欠け、決まった遊び、決まった子どもたちの中での遊びになってしまうことが多かった。支援の必要な子どもに対しても教師主導の遊びになりがちだったように思う。</p> <p>本研究において、思い切り遊びこめるような環境構成、子ども自身の気付きのための言葉掛けや援助の在り方を深めるため、本主題を設定した。</p>	<p>幼稚園教育要領解説にもあるように、「活動の主体は幼児であり、教師は活動が生まれやすく、展開しやすいように意図をもって環境を構成していく」「幼児の生活や発達を見通して指導の計画を立てること」を考え保育にあたることが大切である。日々の保育をただ振り返るだけではその後の発展や見通しは立たない。また、幼稚園教育が幼稚園で終わるのではなく、子どもの発達と学びは連続性しており、いかに子どもの生きる力を育むかを考えていく必要がある。そこで、教師が指導を行う際に考慮する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に着目しながら、日々の保育を振り返ることが発達を長期的な視点で捉え、理解を深めることになると考えた。</p> <p>本研究において、好奇心や探求心を持ち、問題を見出したり解決したりする力を育てる教師の援助の在り方、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりにした子どもの姿の共有、遊びの中での発達の記録の工夫を深めるために本主題を設定した。</p>
	 <p>(年少りす組)</p>		
	 <p>(年中こあら組)</p>		
	 <p>(年長きりん組)</p>		

<b>(課題1) 保育の問題点</b>	担任と講師との「幼児一人一人の発達に応じた援助のタイミングや援助の仕方」の共通理解の在り方のずれの解消	盛り上がりはあるが、連続的に発展することが難しい。支援の必要な子に対して教師主導の遊びになりがちである。	自分の好きな遊びのみに没頭する幼児も多く遊びの広がりが難しいこともある。
<b>(課題2) 保育の改善点</b>	幼児の姿を細かく観察し、教師間で声を掛け合いながら環境構成や幼児理解を工夫していきたい。	幼児自身で遊びを發展させ、適切な援助を行うことで、遊びの中、または生活の中で自己發揮を促すことができる環境構成を整えたい。	様々な遊びに幼児が主体的に着目できるように教師自身が工夫をする。
<b>(課題3) 改善のための手だて</b>	降園後にデジカメの記録等を使用し、保育補助とその日の振り返りを短時間で行う工夫等、保育補助が変わっても一目でわかる記録の工夫が必要ではないか。	物の使い方や時間の可視化、コーナーづくり、適切な声掛けや援助などユニバーサルデザインの環境設定をするとよいのではないか。	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とのつながりに着目して記録を残すことで、発達に必要な体験が得られるような状況を作ったり援助をしたりして環境を構成する。
<b>仮説1</b>	幼児との関わりについて担任と保育補助者が限られた時間の中で、伝え合うことを工夫することで、幼児一人一人の理解をより深めることができるのであろう。	学びの物の環境を整えることで、一人一人のやりたいことが見付き、發展につながるだろう。	教師が遊びの中で意識して適切にかかわることで、子どもの姿を教師同士が同じ目線で共有でき、主体的に活動するための援助がわかりやすくなるだろう。
<b>仮説2</b>	保育中、様々な場面で行った声掛けや援助を伝え合うことで、異なる方法で幼児の内面を探ることができるだろう	場面に応じた援助や声掛けをすることで、より意欲的に主体的な活動を行うことができるだろう。	幼児の姿を褒めたり、学級内で互いに伝えたりすることで幼児主体の活動が生まれやすくなるだろう。
<b>研究方法1</b>	幼児一人一人の発達の内面を理解するための担任・保育補助者それぞれの関わり方と意見交換の場の設定	幼児一人一人の活動の意欲を引き出し、積極的に發展させようとする環境構成の工夫	意図的活動の中で幼児の主体性を引き出し、主体的活動へつなげる保育の展開を記録する
<b>研究方法2</b>	保育中の保育バトンパスの工夫	幼児が安心して遊び込める環境構成と言葉かけや援助の在り方の工夫	主体的な活動時の遊びの記録を育ってほしい10の姿も念頭に記録する
<b>研究内容1</b>	3歳児に気付きや試行錯誤を促し、活動の幅を広げるための教師の援助	遊びを深め、気付き、試行錯誤することで自己發揮を促す環境構成	好奇心や探求心を持ち、問題を見出したり解決したりする力を育てる教師の援助
<b>研究内容2</b>	試行錯誤の場や活動の場を広げるための教師間の連携と環境構成の再構成	幼児一人一人の試行錯誤への援助と環境構成、自己發揮を促すための援助や言葉かけによる効果	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりにした子どもの姿の共有
<b>研究内容3</b>	幼児一人一人の理解と活動の流れの記録の工夫	見取りや記録の工夫	遊びの中での発達の記録の工夫